

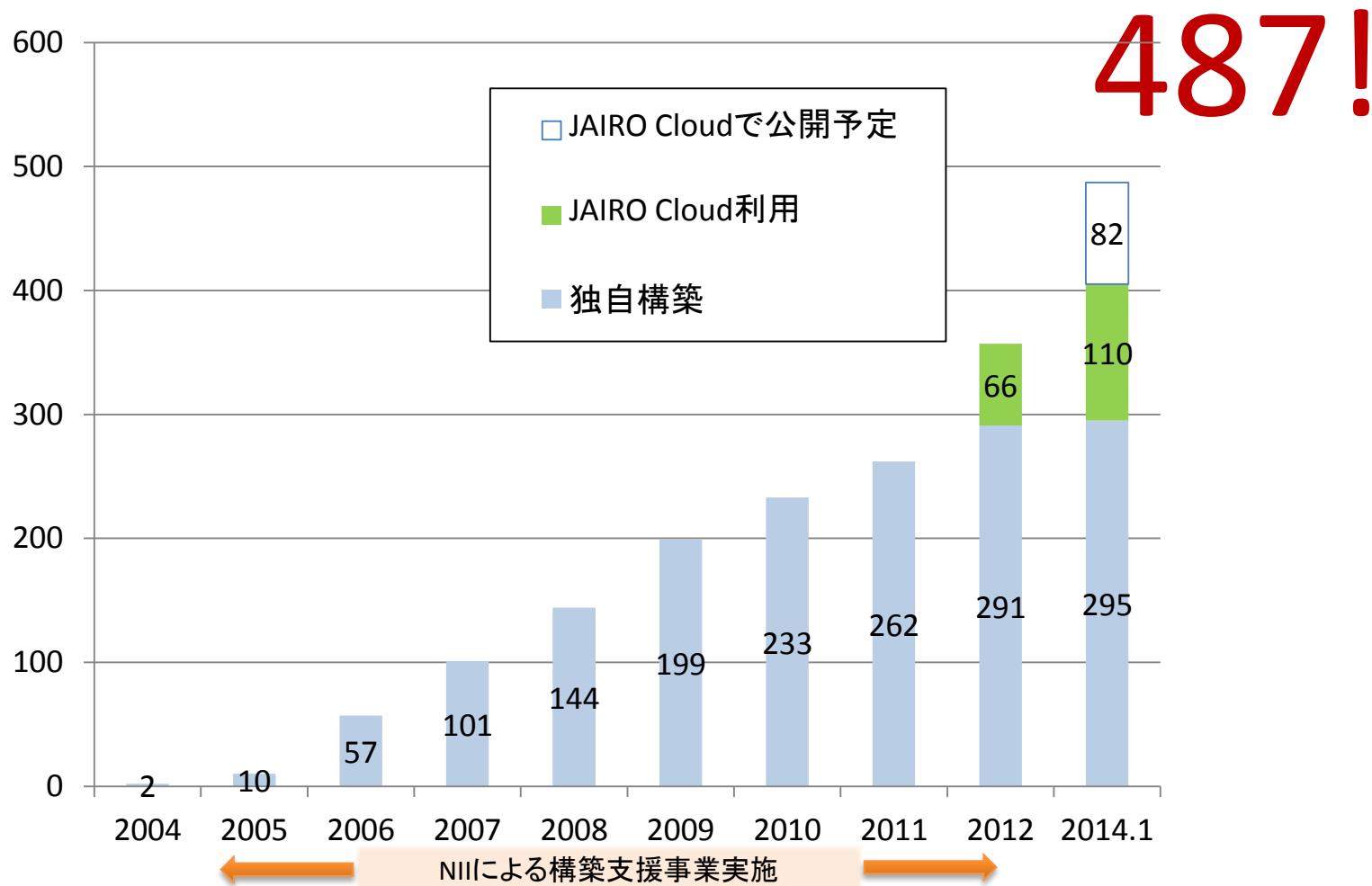
日本の機関リポジトリ これからの10年を考える

国立情報学研究所

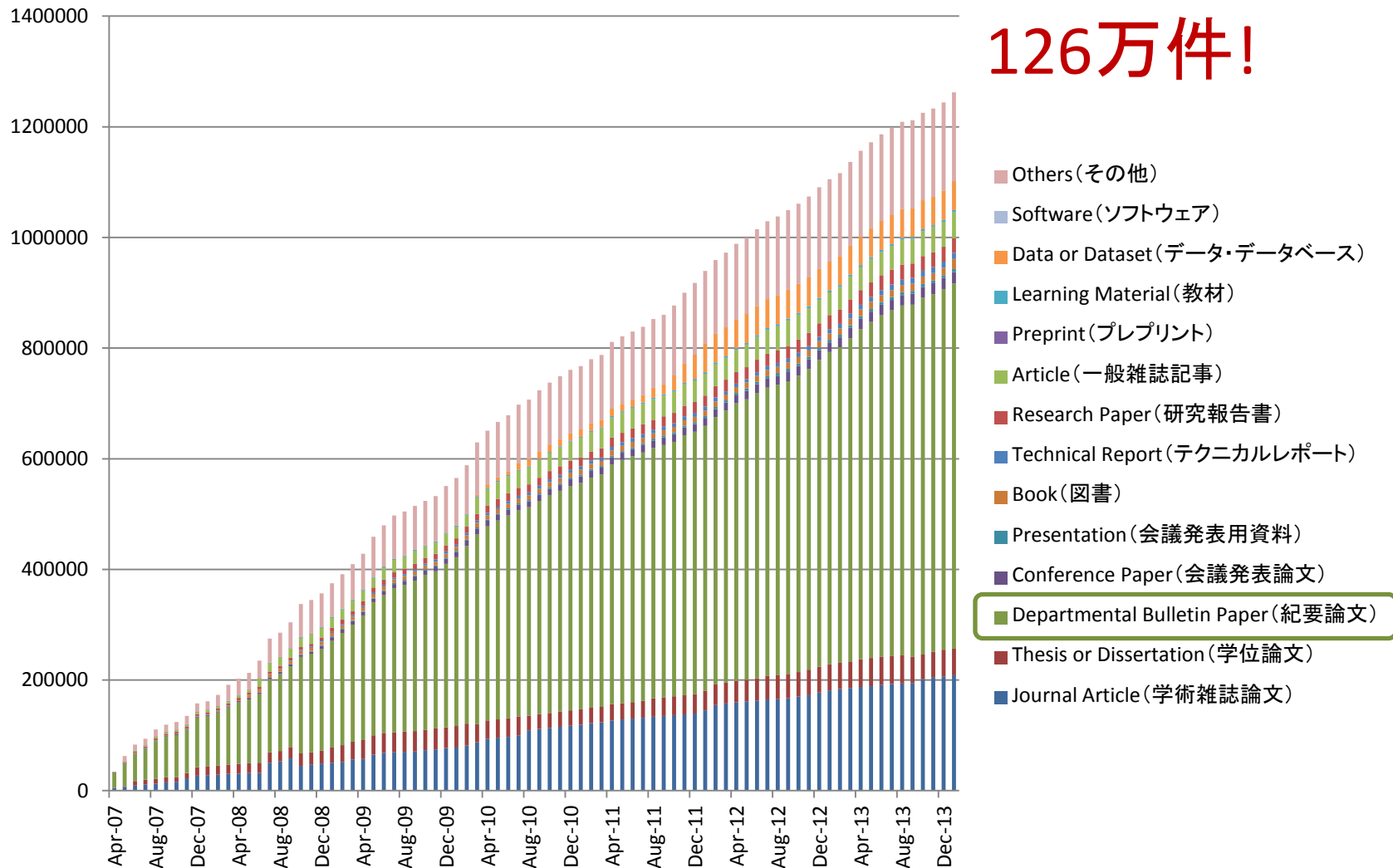
尾城 孝一

日本は機関リポジトリ大国

(構築済機関数の推移)



コンテンツの蓄積



JAIRO (日本のリポジトリのポータル)

English

JAIRO
Japanese Institutional Repositories Online

- お知らせ
- JAIROについて
- 利用方法
- お問い合わせ

- 良く利用されるコンテンツ
- IRDBコンテンツ分析
- JAIRO利用統計

2013/11/06現在 310機関

簡易検索 / 詳細検索

機関リポジトリ

すべて / 本文あり

お知らせ

- 電気設備の法定点検に伴うサービス停止について (2013/11/5)
- ユーザインターフェイスの見直しについて (2013/3/22)
- 本文ありコンテンツ数が100万件を突破しました。100万件目は鹿児島大学リポジトリのこの論文でした。(2012/06/01)

<http://jairo.nii.ac.jp/>

English

JAIRO
Japanese Institutional Repositories Online

- お知らせ
- JAIROについて
- 利用方法
- お問い合わせ

- 良く利用されるコンテンツ
- IRDBコンテンツ分析
- JAIRO利用統計

すべて / 機関リポジトリ

すべて / 本文あり

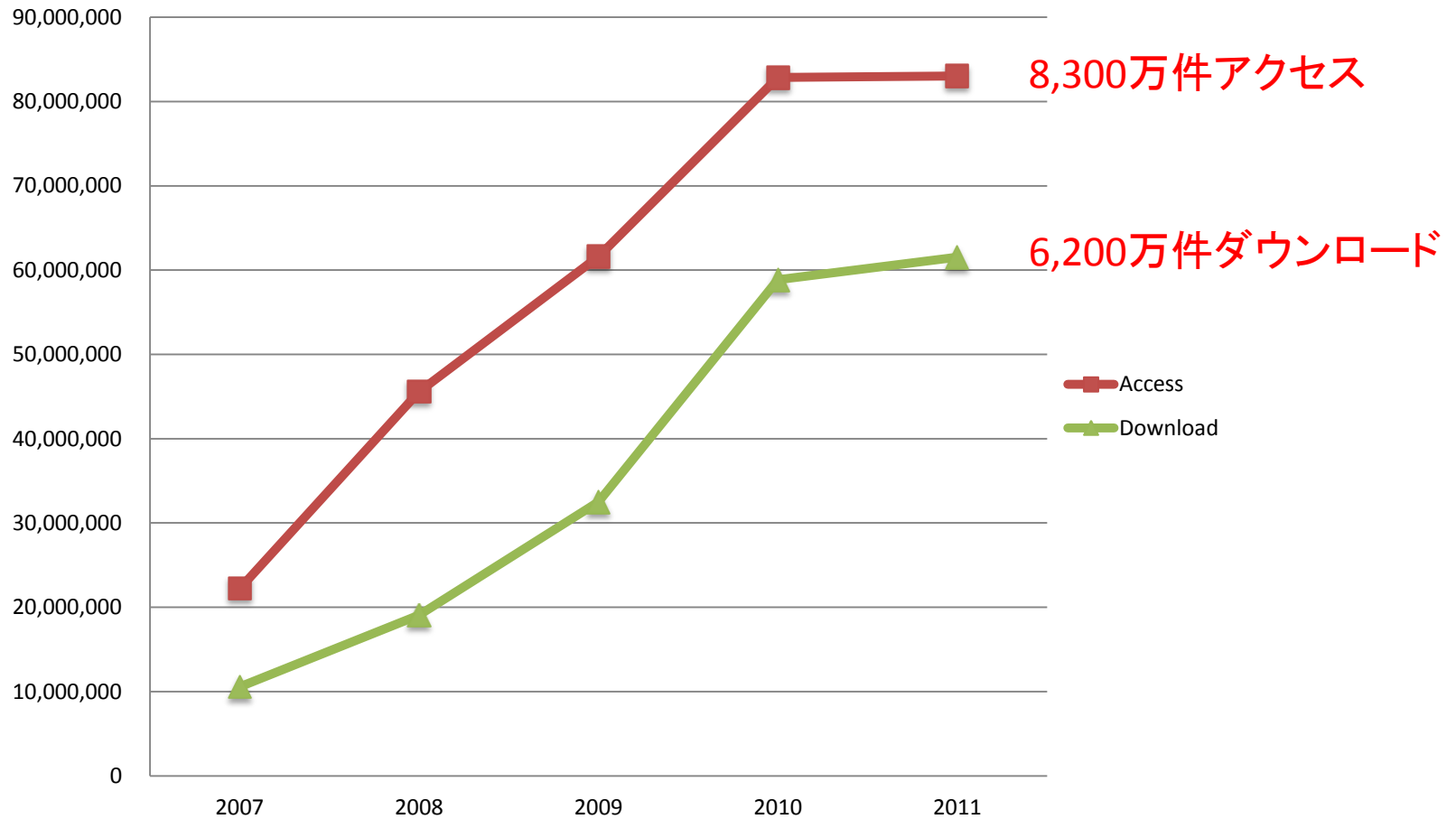
検索結果533件 1 ~ 10件を表示

1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 / 次へ / 最後

操作を選択 / 実行 / 全件選択 / 10件ずつ表示 / 出版年:新しい順に表示

- 医学情報リポジトリと時々 博論 / 和田 崇
DRF10第一巻特別発表資料, 2013-10-29, 奈良県立医科大学附属図書館
No Image 奈良県立医科大学機関リポジトリ GINIMU 奈良県立医科大学
- 「地域生活学研究」編集方針 / 富山大学地域生活学研究會
地域生活学研究 = Journal for Interdisciplinary Research on Community Life, 4, pp.i-ii, 2013-10-01, 富山大学地域生活学研究會
ToRepo 富山大学学術情報リポジトリ 富山大学
- 概要
...009年に誕生して以来、電子版で3号の会誌を刊行してきました。しかし2013年からは装いを新たに、機関リポジトリを活用した、恐らく日本初の「完全無料型」、「オープンアクセス」型論文電子ジャーナルである『地域生活...』
- 地域の大学にメガジャーナルの「迎撃」は可能かー 機関リポジトリを活用した査読付メガジャーナル構想 / 鈴木 晃志郎
地域生活学研究 = Journal for Interdisciplinary Research on Community Life, 4, pp.3-11, 2013-10-01, 富山大学地域生活学研究會
ToRepo 富山大学学術情報リポジトリ 富山大学
- 概要
地域生活学研究會の年報『地域生活学研究』は、大学図書館のリポジトリを活用し、大学の内外、専門のいかに...
- 信州大学における機関リポジトリを中心とした情報流通に関する取り組みについて / 森 一郎
2013-07-19
SOAR 信州大学機関リポジトリ 信州大学
- ささなみ No.15 (2013.4) / 滋賀医科大学附属図書館
2013-04-08, 滋賀医科大学附属図書館
びわ湖 滋賀医科大学機関リポジトリ 滋賀医科大学
- 概要

利用件数(年間)



文科省実態調査より

反省点

1. 「図書館」リポジトリにとどまった
2. グリーンOAが進まなかった
3. ポリシーが弱い
4. 文献リポジトリの壁を越えられなかった
5. CSI委託事業の成果の展開ができなかった

1. 「図書館」リポジトリにとどまった

機関リポジトリの神話と真実
(試作版)

平成17年11月17日

(神話1)
機関リポジトリは、図書館の事業である

(真実)

- 図書館単独の事業ではない。
 - あくまで「機関」リポジトリであり、「図書館」リポジトリではない。大学等の「機関」の事業である。それ故、全学的な合意の下に、計画を進めなければならない。

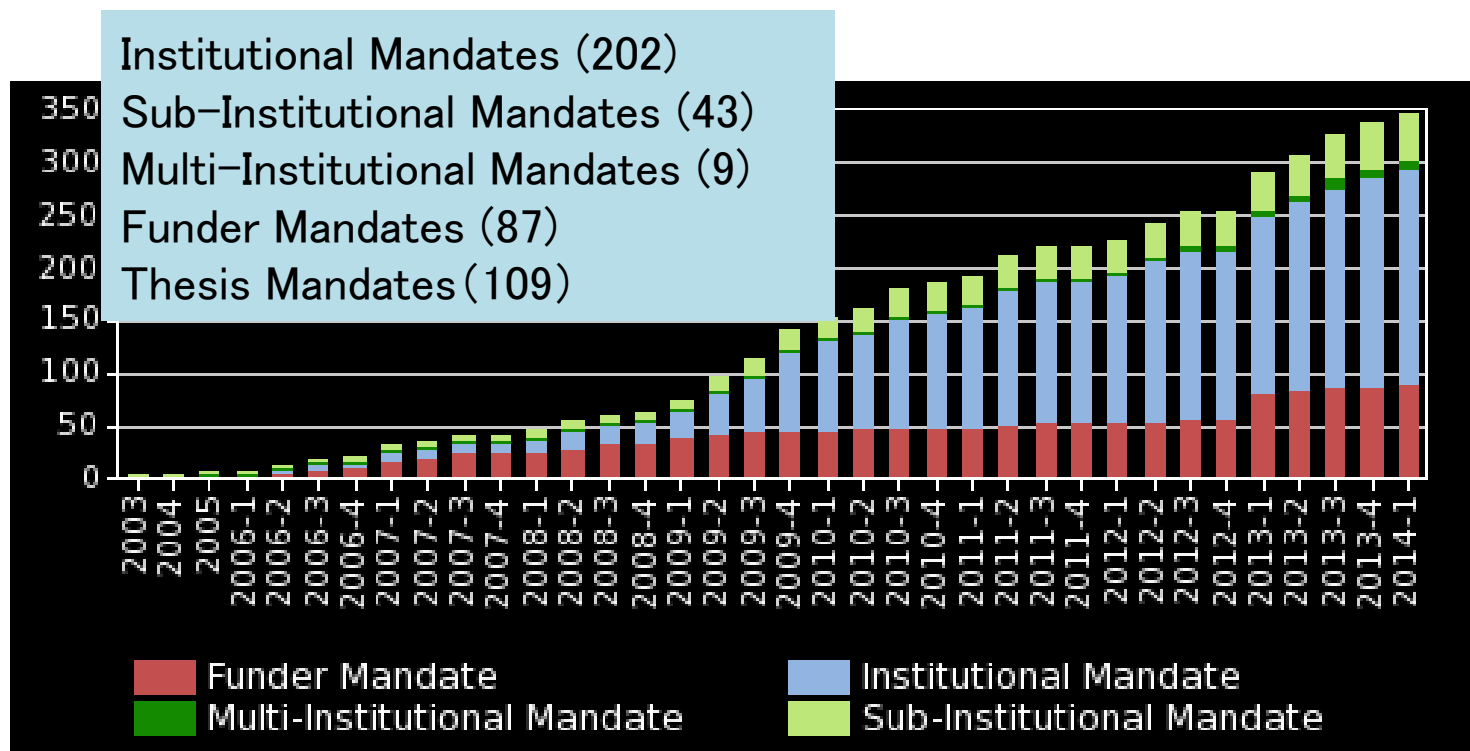
2. グリーンOAが進まなかった

(査読済み学術論文の捕捉率)

- 2011年に出版された日本人研究者による学術論文 (Web of Science 収録) は、
89,000件
(Thomson Reuters. Global Research Report. Sept 2012)
- 日本の機関リポジトリに登録されている、査読済み学術論文(本文あり)のうち、2011年出版の英語論文は、
4,657件
(NII-JAIROの統計、2013年5月30日現在)
- 捕捉率は**5.2%**

3. ポリシーが弱い

(機関リポジトリへの登録義務化の状況)



ROARMAP (<http://roarmap.eprints.org/>)

日本の登録状況: 北大、文科省(学位論文)のみ

hita-hita



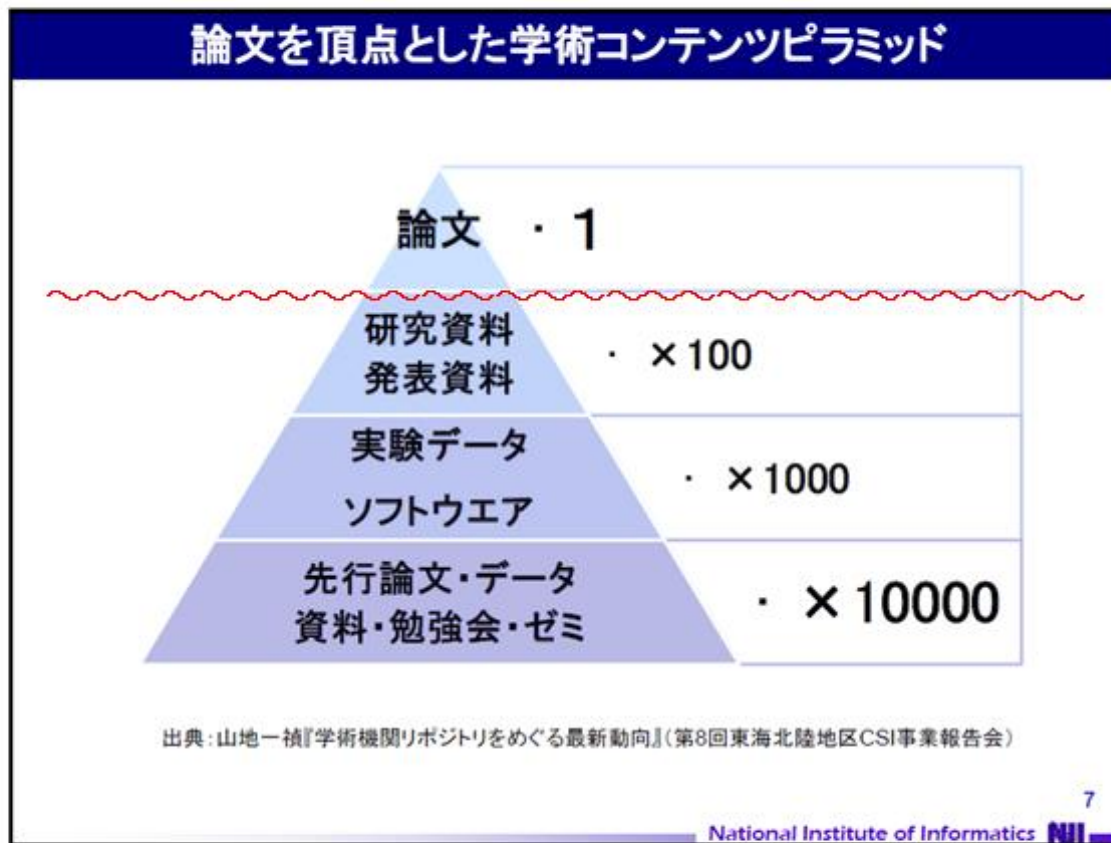
**Hita-Hita: grass roots open access
advocacy and institutional
repositories in Japan**

TSUCHIDE, Ikuko (DRF)
12/07/2012
The COAR workshop in ICTK 2012
India, Bangalore



1

4. 文献リポジトリの壁を越えられなかった



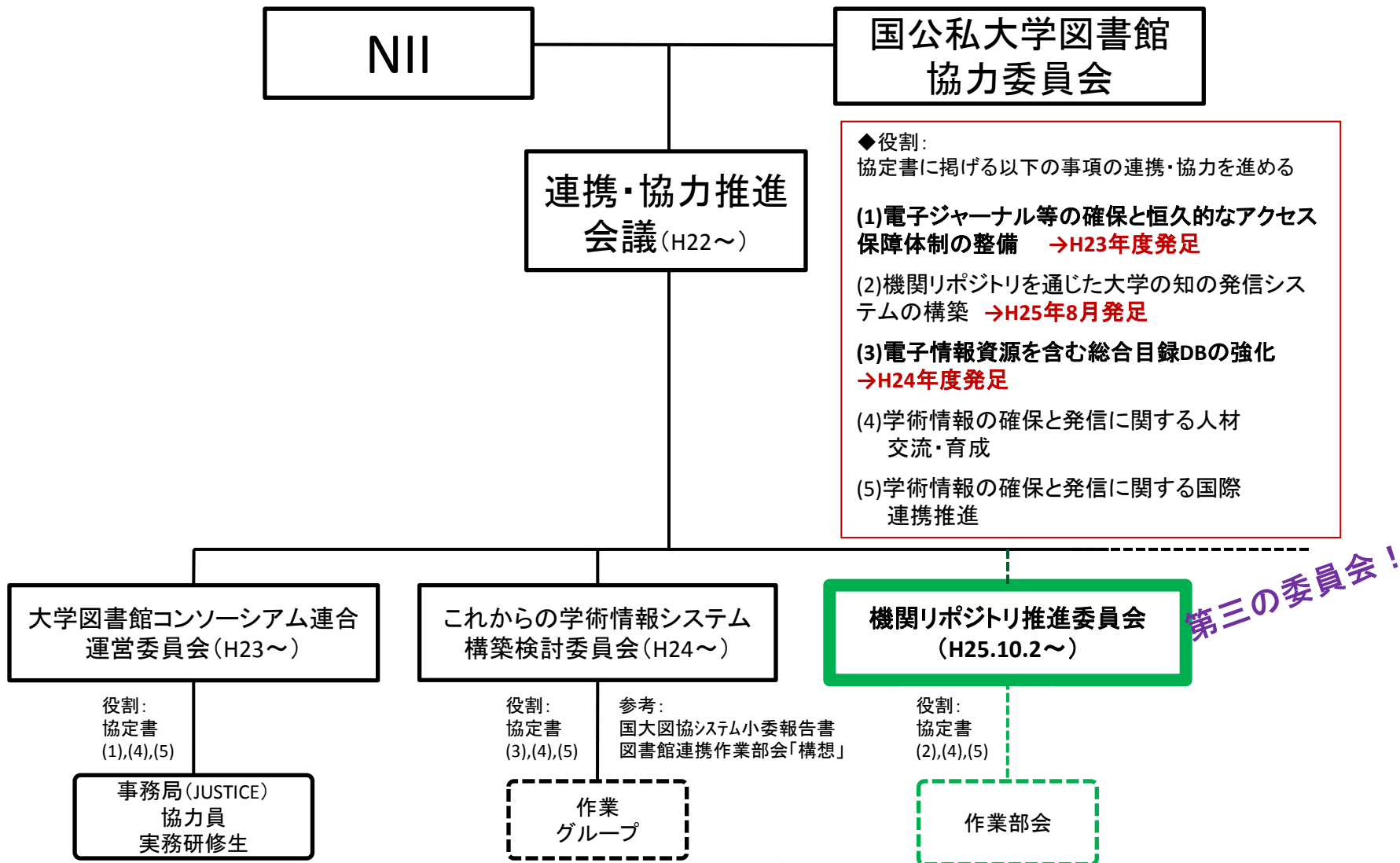
DRF/ShaRe地域ワークショップ(北海道・東北地区)
日時：平成20年12月11日(木)13:00-17:00, 12月12日(金)9:00-16:00
会場：山形大学SCITAセンター

5. CSI委託事業の成果が展開できなかった

研究開発系の27プロジェクト

DRF関連プロジェクト	リポジトリと電子出版の連携モデル
遺跡資料リポジトリ	研究者情報システム連携プログラム
SCPJ	双方向型医学系サブジェクトリポジトリ技術基盤の形成
XooNlps	ユーザ・コミュニティ構築による持続可能なシステム改善
文献自動収集・登録ワークフローシステム	IRのためのシステム連携用ツールの開発
ROAT	研究者コミュニティがIRに深く関わるための入出力活性化
電子出版システムの開発	持続可能な機関リポジトリのための人材進化構造
博士論文発信支援パッケージ開発プロジェクト	e-Science基盤構築のためのデータ・キュレーション
クラウド環境における電子出版・リポジトリ連携実証実験	図書館間文献デリバリーサービスとIR
OA環境下における同定機能導入のための恒久識別子	日本の学術情報発信状況の調査
数学ポータル構築	IRへの登録が学術文献流通に対して及ぼす影響
IR推進のための視認度評価分析システムの開発	教育系サブジェクトリポジトリとしての展開
共同リポジトリ:モデルの構築と普及	
IR上の情報資源発見及びアクセス制の向上	
つくばサイエンスリポジトリ(TSR)	

機関リポジトリ推進委員会



改めて機関リポジトリとは

"a university-based institutional repository is a set of services that a university offers to the members of its community for the management and dissemination of digital materials created by the institution and its community members. "

「大学とその構成員が創造したデジタル資料の管理や発信を行うために、大学がそのコミュニティの構成員に提供する一連のサービス」

(Clifford Lynch, 2003)

改めて図書館にとっての意義とは



デジタル前

(図書館を中抜きにしたアクセス)

デジタル後



(土屋俊, 2006年)

「竹橋宣言」

大学の知の発信システムの構築に向けて(案)

(戦略的重点課題)

1. (ポリシー)
オープンアクセス方針の策定と展開
2. (システム基盤)
将来の機関リポジトリ基盤の高度化
3. (コンテンツ)
コンテンツの充実と活用
4. (人)
研修・人材養成



行動計画

(1) オープンアクセス方針の策定と展開

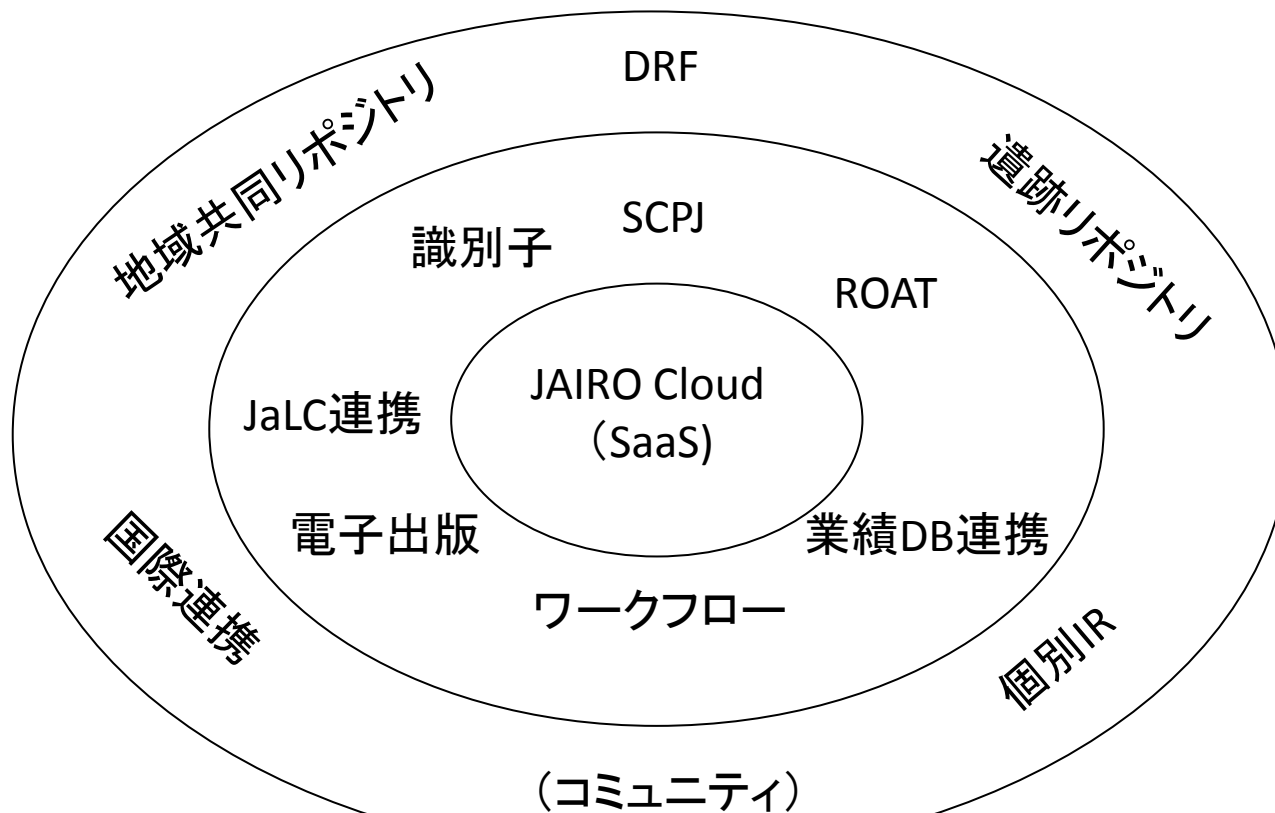
- ① 理事・役員、研究戦略担当部署等との連携強化も含めた各機関のオープンアクセス方針の制定
- ② オープンアクセス方針策定に係る政府、研究助成機関の動向把握と協調

(2) 将来の機関リポジトリ基盤の高度化

- ① クラウド環境下における機関リポジトリに求められる機能要件の策定とJAIRO Cloudへの実装
- ② 大学・NII間共同運営方式によるJAIRO Cloudシステムの維持管理の可能性と検討・立案

JCをコアとした機関リポジトリ推進基盤

- 単なるSaaS型の機関リポジトリ・システムファシリティではなく
- CSI委託事業の成果である各種ツールやユーティリティ類を組み込み
- コミュニティによる互助体制を含んだ包括的なインフラ



(3) コンテンツの充実

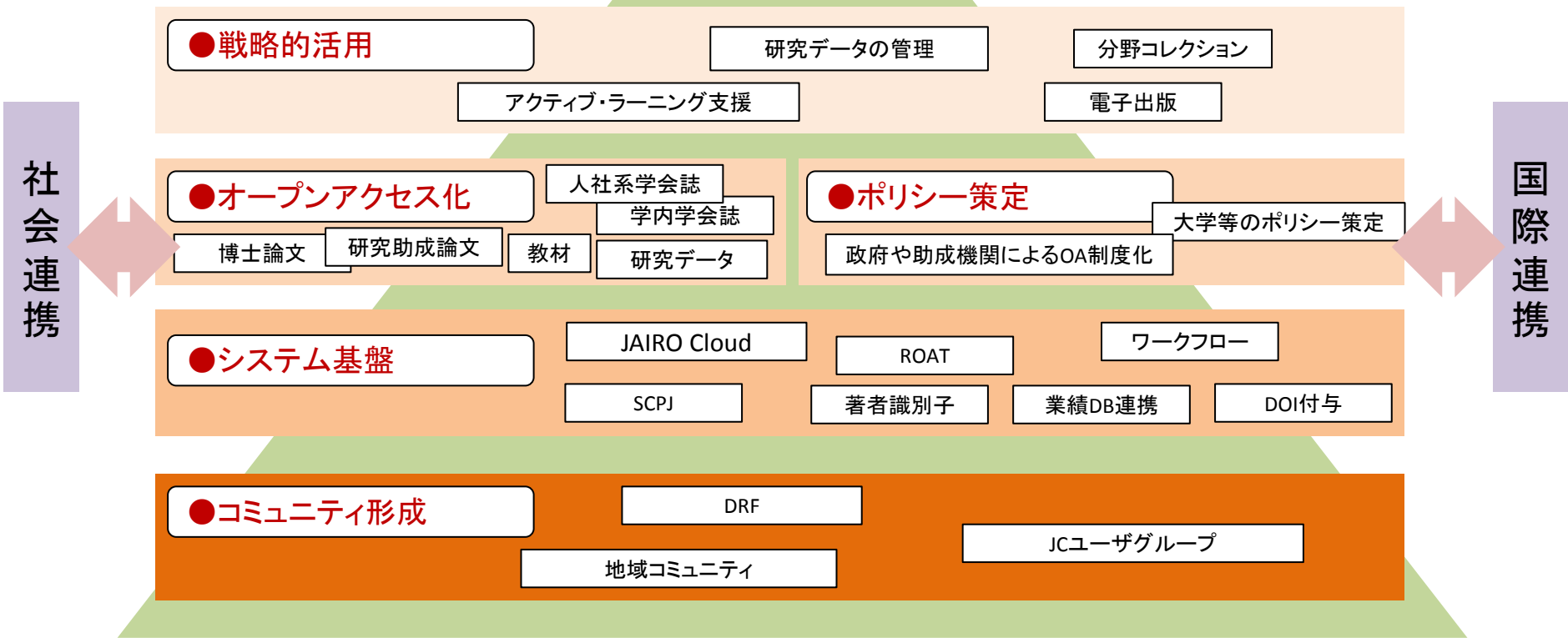
- ① 学術論文を中心とした未整備の文献の充実
- ② 対象コンテンツの範囲の文献以外への拡大
- ③ 研究活動の始点を起点とした研究者(グループ)との連携形成による中間・最終生産物の網羅的蓄積・公開
- ④ 紀要、学位論文へのDOI付与、コンテンツに対応したメタデータの変更等のコンテンツの質の向上

(4) 研修・人材

- ① 関連機関と連携した文献以外の電子的学術コンテンツの取扱い(メタデータスキーマ、データ管理プラン等)に関する調査研究や人材育成
- ② 大学図書館の協議会組織の主催による担当者研修の実施
- ③ 国内リポジトリ担当者コミュニティとの協力による情報共有促進
- ④ 国内リポジトリ担当者コミュニティとの協力による国際連携の推進

全体構想

知識インフラとしての機関リポジトリ整備 大学等における教育研究成果のオープンアクセス化推進



リポジトリをもっと教員の身近に

教員の教育や研究のワークフロー、すなわち教員の動線上にうまく、機関リポジトリを位置付けて、教員が自発的に、研究や教育の成果をドロップできるようなシステムが不可欠



「大学とその構成員が創造したデジタル資料の管理や発信を行うために、大学がそのコミュニティの構成員に提供する一連のサービス」